

地域経済を支えるパートナーとして

2003年6月13日に地元中小企業、大阪府立大学（※2022年4月に大阪市立大学と統合し大阪公立大学へ改称）、
（株）さかい新事業創造センター（堺市のビジネス・インキュベーション）と連携し、「だいしん産学連携共創機構」を創設
しました。当金庫が大阪公立大学へ常駐派遣している「産学官連携コーディネーター」は、大学とのスムーズな橋渡しに
より、数多くの課題解決や新商品開発に貢献しています。

2019年5月27日には創業100周年記念事業の一環として大阪工業大学と包括産学連携協定を締結し、「産学官連
携コーディネーター」を新たに常駐派遣しており、同大学の強みである「知的財産」や「デザイン」の分野においても課
題解決に繋がるソリューションを提供することが可能となっています。

これまで産学官連携コーディネーターを担当した9名の職員は専門的な課題にも対応できるスキルを有し、レベル
の高い事業性評価のできる人材となっています。近年は、大阪産業技術研究所や大阪府立環境農林水産総合研究所
だけでなく、近畿職業能力開発大学校との連携も始まり、専門的なスキルの幅が広がっています。

「ラボツアー」の開催

当金庫では、大阪産業技術研究所（以下、「大阪技術研」という。）ならびに大阪府立環境農林水産総合研究所（以下、
「環農水研」という。）と包括連携協定を締結し、取引先中小企業向け「ラボツアー」を定期的に開催しています。また、
今年度より近畿職業能力開発大学校（以下、「近畿能開大」という。）とも連携し、施設見学ツアーを実施しています。



大阪産業技術研究所

■「大阪技術研ラボツアー」開催の様子



大阪府立環境農林水産総合研究所

■「環農水研ラボツアー」開催の様子



近畿職業能力開発大学校

■「近畿能開大施設見学ツアー」開催の様子



産学官連携を利用した事例のご紹介

産学官連携の相談から ビジネスマッチングに発展

A社は、訪問介護事業や老人ホームの運営を営んでい
ましたが、就労支援事業進出に向け、農業部門への参入
を計画していました。同社は、ハートフル農業を推進する
「環農水研」において、農業に関する研究開発や技術支
援、情報提供を受け、その後、農作業について実践的な
指導ができる当金庫取引先B社とのビジネスマッチン
グが成立し、2023年
12月にイチゴ農園の
オープンにこぎつけ
ました。



「大阪公立大学商学部北野ゼミ」と 金庫取引先との学外ゼミ開催

大阪公立大学商学部の北野友士准教授は、「金融機
関論」や「金融リテラシー」を研究しています。准教授か
ら「中小企業のリアルな声をゼミ生に伝えてほしい」と
いう申し出に応え、上記A社、B社のご協力のもと、起業
に至った経緯や
中小企業経営の
リアルな話を
ご講演いただきま
した。



◎これまでの活動実績（2024年3月末現在）

会員事業所数	1,175先				
技術相談	525件	他大学等との共同研究	4件	会員間ビジネスマッチング	259件
共同研究	33件	大阪産業技術研究所 大阪府立環境農林水産総合研究所の紹介	352件	他大学等への技術相談	86件
奨励寄付研究	34件	大阪公立大学と顧問契約	9件		

「桃山学院大学」起業部と 産学連携共同PJ実施

北摂地域で洋菓子店を経営するC社は、学生のアイ
デアを活かした商品開発をかねてより検討していまし
た。2023年4月、桃山学院大学が起業部を創部し、大
学のオープンキャンパスで配布するノベルティの配布
を検討しているとの情報を得て、スイーツをノベルティ
とする共同PJを立ち上げました。学
生のアイデアを形にして商品を開発
し、2024年の
オープンキャン
パスで配布を予
定しています。



「大阪工業大学」との 共同研究契約締結へ

金属プレス加工業を営むD社は、かねてより安定した
製品品質を維持する方法を考えていました。

大阪工業大学の教授に相談を持ち込み、「切削工具
における劣化状況推定・予知システム」の開発に向けて
共同研究契約を締結しました。

今回の研究結果を踏まえ、
精度の高い工具管理ができる
システムを、稼働監視デバイス
に実装する予定です。



プレス稼働状況を見える化できるIoTカウンター「見え次郎」